

都市再生整備計画

あ さ か え き し ゅ う へ ん ち く

朝霞駅周辺地区

(第1回変更)

さ い た ま あ さ か
埼玉県 朝霞市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	埼玉県	市町村名	あさか 朝霞市	地区名	あさかえきしゅうへん 朝霞駅周辺地区	面積	76.3	ha
計画期間	令和5年度～令和9年度	交付期間	令和5年度～令和9年度					

目標
大目標：住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地が良く、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出を図る 目標1：商店街の活性化と子育て・福祉・文化などの機能集積による魅力ある市民生活の中心となるような空間づくり 目標2：誰もが安心・安全に移動できる、歩行者優先の歩いて暮らせるまちづくり 目標3：緑の多面的機能を活用するグリーンインフラの充実

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本市の南部を国道254号(川越街道)、東部の市境を外かく環状線が通り、高速道路に容易にアクセスすることができ、また都心と直結する東武東上線と東京メトロ有楽町線・副都心線(東急東横線、みなのみらい線と相互乗入)が走るなどの交通の利便性を背景に、本地区周辺では近年高層マンションの建設が続いているなど定住人口が増加している。 本地区は、交通便利性を活かした本市の中心的な拠点として、また地域生活の玄関口としての機能の強化や商業施設などの立地誘導を図る「都市拠点」に位置付けられている。本地区を含む朝霞駅周辺地区では、土地区画整理事業が実施され、駅前広場等の都市基盤整備が進められてきた。 また、本地区には市役所や公民館、図書館、都市公園、学校などの公共施設が集中しており、日々多くの人の往来や滞留があり、賑わいのポテンシャルを有している。 上記の本地区のまちづくりの経緯や現状を踏まえ、ウォーカブルなまちなかの推進やにぎわい創出といったまちなかの魅力向上に関する事項を協議する「あさかエリアデザイン会議(エアプラットフォーム)」を設置し、エリアの将来像と実現させるための施策を位置付けた「エアビジョン」を策定し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の構築に向けた取組を推進している。
課題
・子どもから高齢者・障害のある人など誰もが安全・安心に移動できる、歩行者優先の「歩いて暮らせるまちづくり」、住み慣れた地域で安心して暮らせる「外出しやすいまちづくり」への対応が求められている。 ・朝霞駅前商店街は、古くからの商店が散在しており、空き店舗が増加するなど、賑わいが失われつつある。 ・駅前広場や駅前通りなどは緑が少ないため、魅力的な緑空間の創出による交流拠点づくりなど、緑の多面的機能を活用するグリーンインフラの充実が求められている。
将来ビジョン(中長期)
①第5次朝霞市総合計画 後期計画(2021-2025)(令和2年度策定) ・まちの限られた土地資源が有効に活用され、公共交通機関の利便性の高い地域を中心に市街地がまとまり、緑地・自然環境と調和した、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を行えるまちを目指す。 ・ウォーカブル推進都市として、歩行空間の快適性向上を目指し、道路などの公共空間を有効活用するなど、居心地がよく歩きたくなるまちなかづくりを推進する。 ②朝霞都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(令和4年度策定) ・朝霞駅の周辺は「中心拠点」に位置付けられ、環境との調和に配慮しながら、商業業務施設、公共施設、医療・福祉・子育て支援施設など多様な都市機能を集積し、まちの顔となる拠点を形成する。 ③朝霞市都市計画マスタープラン(2005-2025)(平成28年度改訂) ・朝霞駅周辺の道路など都市基盤整備の推進に加え、商店街の活性化に向け、魅力ある店舗の誘致などによる商業業務機能の充実やおもてなしが感じられる取組などによる空洞化対策を図るとともに、駅周辺の利便性を活かした医療・福祉などの各種生活サービスや行政サービスなどの都市機能の集積を図り、魅力と活力ある中心市街地としてのにぎわいを推進する。 ・駅や商店街、周辺施設が連携し、歩行者や自転車などの安全性の確保や魅力的な空間演出を進めるなど、利用者の快適性・利便性に配慮した環境づくりに務める。 ④朝霞駅周辺エリアの未来ビジョン(令和4年度策定) ・住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地がよく、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出を目指す。

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画
滞在快適性等向上区域の考え方 朝霞駅周辺に指定されている立地適正化計画の都市機能誘導区域と同じ範囲を滞在快適性等向上区域を設定し、道路空間の再構築により歩行者空間を確保するとともに、歩行者空間を活用したイベント等の取組が実施できるスペースの確保により、住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地が良く、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」を創出する。 滞在快適性等向上区域での取組 駅西口富士見通線において、市が道路空間の再構築を行い歩道空間の拡幅及び、無電柱化、舗装のグレードアップ等を行うことにより、ゆとりがあり歩きやすく、イベント等にも活用できる歩行者空間を創出する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
朝霞駅の乗降人員	人／日	朝霞駅の1日平均の乗降客数	住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地がよく、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出により朝霞駅を利用する人が増加する。	55,000人／日	R2年度	57,000人／日	R9年度
公共空間を活用した取組日数	日	滞在快適性等向上区域内における公共空間を活用した取組の実施日の年度合計	住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地がよく、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出により朝霞駅周辺の公共空間を活用した取組の実施日が増加する。	1日	R3年度	12日	R9年度
居住誘導区域の人口	人	居住誘導区域の人口	住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地がよく、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出により居住誘導区域内の人口が増加する。	140, 874人	R3年度	144, 800人	R9年度
朝霞駅南口駅前通りの通行人数	人	(今後、交通量調査をする際に定義を決定する。	住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地がよく、歩きたくなるまち」「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出により朝霞駅南口駅前通りの通行人数が増加する。	778人	R4年度	860人	R9年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【商店街の活性化と子育て・福祉・文化などの機能集積による魅力ある市民生活の中心となるような空間づくり】 ・道路空間の再構築による歩行者空間の拡幅及びイベント等に活用できる空間の確保		【基幹事業】(道路)駅西口富士見通線 【基幹事業】(地域生活基盤施設)朝霞消防団第五分団横公共空地 【関連事業】朝霞駅南口駅前通り
【誰もが安心・安全に移動できる、歩行者優先の歩いて暮らせるまちづくり】 ・道路空間の再構築による自動車の速度や通過交通の進入抑制 ・道路空間等に休憩施設を設けるなど、歩きやすい空間を確保		【基幹事業】(道路)駅西口富士見通線 【基幹事業】(地域生活基盤施設)朝霞消防団第五分団横公共空地 【基幹事業】(高質空間形成施設)朝霞駅南口駅前通り及び周辺市道(市道1号線・5号線等) 【関連事業】都市計画道路 駅東通線 【関連事業】都市計画道路 岡通線 【関連事業】朝霞駅南口駅前通り
【緑の多面的機能を活用するグリーンインフラの充実】 ・道路空間の再構築等に合わせたグリーンインフラの充実		【基幹事業】(道路)駅西口富士見通線 【基幹事業】(地域生活基盤施設)朝霞消防団第五分団横公共空地 【基幹事業】(高質空間形成施設)朝霞駅南口駅前通り及び周辺市道(市道1号線・5号線等)
その他		
【その他官民協働の取り組み事例】 ・朝霞駅周辺における公共空間の活用を軸に、「居心地が良く、歩きたくなるまち」と「人でにぎわう魅力的な商業エリア」の創出を目指す官民連携組織、「朝霞エリアデザイン会議」が発足(令和4年4月) ・朝霞駅周辺エリアについてのエリアビジョン(ペータ版)を策定(令和5年) ・朝霞エリアデザイン会議を主催とし、駅前商店街やシンボルロード等、朝霞駅周辺で公共空間を活用したイベント「アサカストリートテラス」を開催(令和2年10月～)		

様式(1)-④-3

(金額の単位は百万円)

...A

0...R

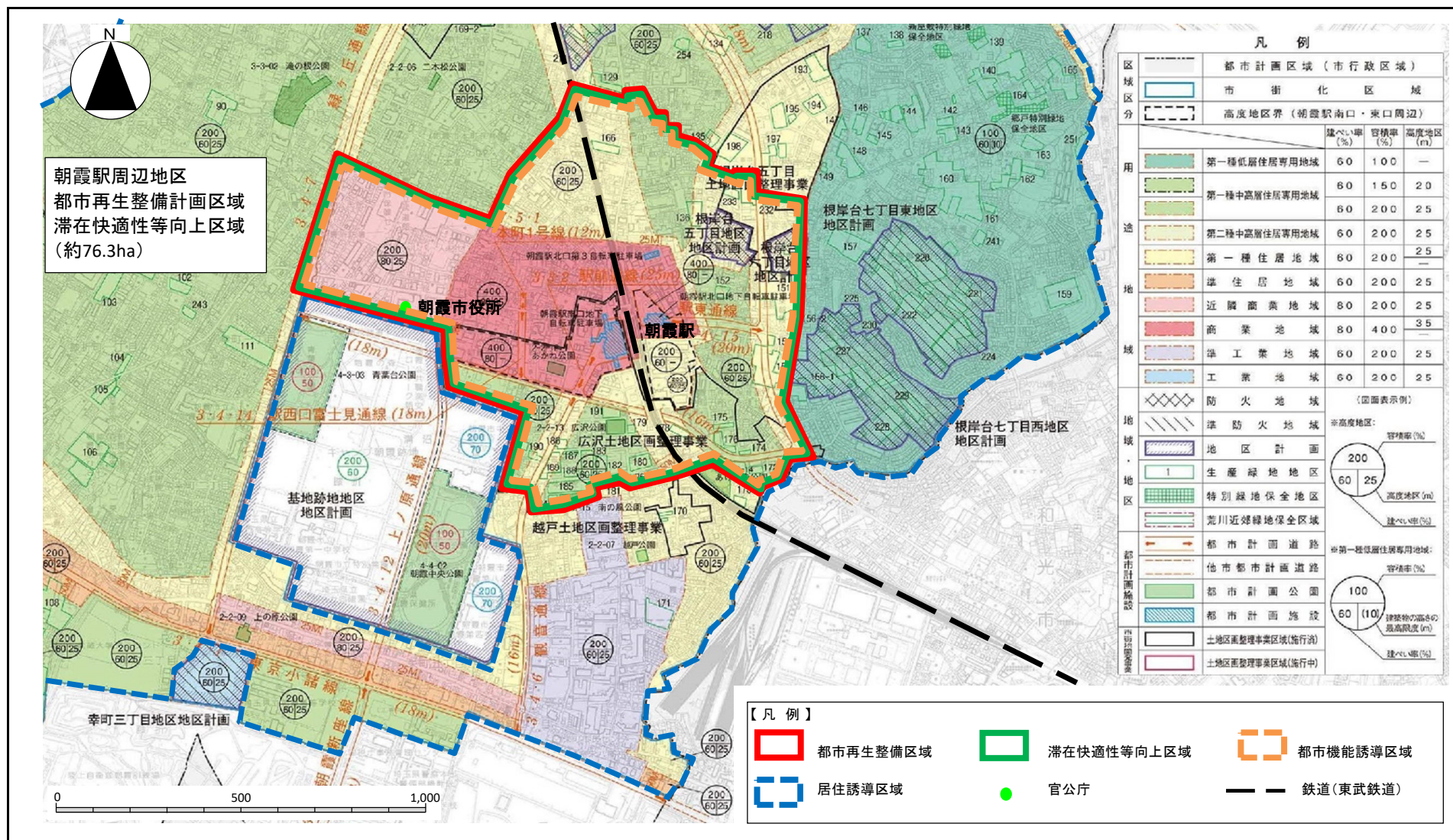
[illegible]

面積

76.3 ha

区域

区域	朝霞市本町1・3丁目の一部、本町2丁目、仲町1・2丁目の一部、根岸台1、5丁目の一部、根岸台6丁目、幸町1丁目的一部
----	--



朝霞駅周辺地区(埼玉県朝霞市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標: 住んでいる人、訪れる人の誰もが「居心地が良く、歩きたくなるまち」 「人で賑わう魅力的な商業エリア」の創出を図る	代表的な指標	朝霞駅の乗降人員 (人/日)	55,000人/日 (R2年度)	→	57,000人/日 (R9年度)
	目標1: 商店街の活性化と子育て・福祉・文化などの機能集積による魅力ある 市民生活の中心となるような空間づくり		公共空間を活用した取組日数 (日)	1日 (R3年度)	→	12日 (R9年度)
	目標2: 誰もが安心・安全に移動できる、歩行者優先の歩いて暮らせるまちづくり		居住誘導区域の人口 (人)	140,874人 (R3年度)	→	144,800人 (R9年度)
	目標3: 緑の多面的機能を活用するグリーンインフラの充実		朝霞駅南口駅前通りの通行人数 (人)	778人 (R4年度)	→	860人 (R9年度)

